

# 春雨に濡る

(大正十二年寮歌)

高橋北雄君 作歌  
西田貫道君 作曲

## 一

春雨に濡るアカシヤ花  
街路の灯はなやかに  
地は銀鼠にたそがるる  
寂かに歩む若人が  
心にめざむ爽かの  
瀧み充てる力かな

## 二

夏の入陽に砂丘の  
独虎の骨に鷗飛ぶ  
融けざる銀の山脈は  
碧薄れゆく空にうく  
名残の光身にあびて  
異郷の方を思ふかな

## 三

灰青白き白樺や  
落葉ふむ音寂しくも  
谷また谷を辿り行き  
今宵は淡き夢見んと  
焚火を囲み歌ふ寮歌  
紫紺の闇に解けて行く

## 四

青き空透き銀の月  
石狩の河波光る  
雪の野限は靄こめて  
灯漂ふアイヌ小屋  
琥珀の酒を汲み交し  
王者の誇偲ぶかな